

Home coming day のあいさつ

皆さんこんにちは。お元気ですか。私はこの3月に退職しました。この度は、Home coming day の担当の方から、お声がけいただきましたので、直近の退職教員の一人として一言あいさついたします。

2003年春に最初の卒業生が卒業してから今年の3月までに19回の卒業式が行われました。

最近は、県内を中心に、社会のあらゆる場所で卒業生の活躍を目にし、それも異なる職場、職種の卒業生が協力して仕事をする姿が話題となるようになりました。本当にうれしく、かつ、頼もしい限りです。

昨年1月から出現した、20世紀初めのインフルエンザパンデミック以来、100年ぶりのコロナパンデミックの中で、医療職のみならず、その他の職場でも大きな混乱と困難に直面する現場へ飛び込んだ皆さんにyellをおくります。大変だとは思いますが、先輩の皆さんと協力して、何とか乗り切っていただくことを、心から祈願しています。

大学も対面授業や実習がやりにくい状況が続いていますが、一昨年から国内外で活躍する卒業生が、国際協力や保健、看護などの分野で、現地から遠隔授業を行ってくれています。大学教育は、コロナ禍の中で、失ったものも多いですが、新しい可能性も見出しています。

過去の感染症パンデミックは社会に変革を起こしました。今回のコロナパンデミックの影響でも、IT活用による働き方や社会システムの変革などはまだ序の口で、今まで想像もしなかった新しい時代に突入します。過去に経験したがないような変化の中で、皆さんは、大学で学んだことを基盤に、独自の創造性を発揮して、新しい時代を作っていくこと信じています。

皆様のご活躍を心から祈っています。

前学長 萱場一則

